

平成 21 年 10 月から平成 25 年 2 月の間に川崎医科大学附属病院小児科にインフルエンザで入院治療された患者さんへ

研究課題名 ; 「インフルエンザ小児入院症例におけるペラミビル比較試験」

当附属病院では、川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、平成 25 年 12 月 9 日（倫理委員会承認日）から 2 年間の期間にインフルエンザに対し使われた薬剤の効果、副作用に関して後方視的研究を行います。

本研究は、後方視的にインフルエンザの治療薬における効果・副作用の検討を行い、小児にとってより良いインフルエンザ治療とは何かを考えていく研究です。

インフルエンザは冬季に流行する疾患であり、通常は外来で治療されることが多いですが、小児の場合熱性けいれんや肺炎、水分摂取不良等で入院を余儀なくされる例も少なからずおられます。入院例に関しましては、より早い解熱が望まれます。近年インフルエンザの治療薬として、点滴や吸入の薬剤が新たに登場しました。しかし小児でのデータは少なく、現在積み重ねている状況です。今回検討する点滴のインフルエンザの治療薬「ラピアクタ」は小児でも適応が通っている薬剤です。そのラピアクタと、従来使われている内服薬の「タミフル」に対して比較を行い、より効果のある薬剤を検討していく研究を行いたいと考えました。

今回の研究においては、どなたのデータであるかわからないようにして管理し、細心の注意を払って研究を行います。

また研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねないことを利益相反といいますが、このような利益相反はこの研究では学内研究費のみを使用するためおこりません。

研究成果は学会や論文として発表する予定ですが、患者さん個人の情報の公表や、外部に漏れることは決してありません。個人が判別できない状況で研究を行いますので、研究結果を患者本人やご家族に個別にお知らせすることはございません。

上記研究において、ご自身の診療情報が利用されることについてご同意いただけない場合には、お手数ではございますが、下記までご一報くださいますようお願いいたします。そのほかご不明な点がございましたらお問い合わせください。

問い合わせ先：川崎医科大学 小児科学 講師 赤池洋人

E-mail : redpond@med.kawasaki-m.ac.jp

Tel : 086-462-1111 (内線 44108)

Fax : 086-464-1038